

重荷を軽くしてくださるように

七十人会長会

L・ホイットニー・クレートン長老

重荷は、自己を完成させるために必要な徳を実践する機会を与えてくれます。

何年も前、アンデス山脈の高地に位置するペルーのクスコでのことです。夜明けに丸石を敷き詰めた狭い道を歩いていました。すると、先住民族の男性が道を歩いて来るのが見えました。大柄ではありませんでしたが、薪がたくさん入った麻布の大袋を背負っていました。袋の大きさはほぼ男性の体と同じでした。荷物はきっと男性と同じくらい重かったでしょう。彼は袋の底から出ている縄で荷物を固定し、その縄を自分の額に巻きつけ、頭の両側でその縄を握り締めていました。縄と頭の間には布を挟み、縄が皮膚に食い込むのを防いでいました。男性は荷物の下で前かがみになり、慎重に、苦勞しながら歩いていました。

男性は薪を売りに市場まで運んで行く途中でした。普段、このような扱いにいくつ重たい荷物を運んで、町を2、3度行き来します。

体を前のめりにして四苦八苦しながら歩く男性の記憶は、時がたつにつれ、ますます意味のあるものとなりました。男性はそのような重荷をどれだけ運び続けることができるのでしょうか。

人生は、あらゆる種類の重荷をわたしたちに課します。軽いものもありますが、容赦なく重いものもあります。人々は、自分にのしかかる重荷に日々もがいています。多くの人がそのような重荷に苦しんでいます。それらは情緒的または肉体的な重圧となります。また、厄介で耐え難く、心身を疲れさせ、何年にもわたって続くこともあります。

一般的に、重荷には3つの源があります。ある重荷は、わたしたちの住むこの世界が自然に生み出すものです。病、身体の障がい、ハリケーン、地震などは、わたしたちに落ち度がなくても時折やって来ます。これらの危機に備えることはでき、時には予測できることもありますが、自然の法則に従って、だれもがいつかこのような試練の幾つかを経験することでしょう。

別の重荷は、他人の悪い行いによるものです。虐待や依存症は、罪のない家族にとって家庭を地上の天国とは程遠いものにしてしまいます。罪、誤った伝統、抑圧、犯罪は、人生のいたる所で犠牲者に重荷を負わせます。うわさ話や不親切などの比較的軽度の悪事も、相手に大きな苦しみを与えます。

問題の多くは、わたしたち自身の過ちと欠点のために生じ、わたしたち自身の肩に重くのしかかります。自分自身の首を絞める最も厄介な重荷は、罪の重荷です。わたしたちは皆、戒めを守らないときに必ず生じる深い後悔の念と苦痛を知っています。

自然、他人の悪事、あるいは自分の過ちや欠点が原因で、人生でどのような重荷を負うことになるだろうとも、わたしたちは皆慈しみ深い天の御父の子供です。天の御父はわたしたちの成長と進歩のために永遠の計画を備え、その計画に添ってわたしたちを地上に送られました。わたしたちは、それぞれに与えられる経験を通して、御父のみもとに戻る備えをすることができます。わたしたちが経験する逆境や苦難は、たとえそれがどんなに耐え難いものであっても、天から見れば「つかの間にすぎ」ません。「その後、〔わたしたち〕がそれをよく堪え忍ぶならば、神は〔わたしたち〕を高い所に上げ〔くださるでしょう〕。」¹ わたしたちは、重荷を背負うその「つかの間」がどれだけ長く続こうとも、「よく」堪え忍ぶためにできる限りのことを行わなければなりません。

重荷は、自己を完成させるために必要な徳を実践する機会を与えてくれます。わたしたちの重荷は、「聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従〔うよう〕」² わたしたちを促します。このように、重荷は祝福となるのです。ただし、このような祝福はしばしば姿を隠して、それを受け入れ理解するまでに時間と努力、信仰を必要とすることがあります。4つの例を用いて説明しましょう。

- 第1に、主はアダムのために思って「地はあなたのためにのろわれ」、
「あなたは顔に汗してパンを食べ〔るであろう〕」とおっしゃいました。³ 労働は継続的な重荷ですが、「顔に汗して」のみ学ぶことのできる教訓を教えるため、「〔わたしたち〕のため」に継続して与えられる祝福でもあるのです。
- 第2に、アルマはゾーラム人の貧しい者たちが、貧困と「苦しみを受けて心がへりくだっており、御言葉を聞く用意のできている」⁴ のに気づきました。さらに「やむを得ずへりくだっているので、あなたがたは幸いである」⁵ と述べています。現在の経済的な困難は、主の御言葉を聞けるようにしてくれるものなのです。
- 第3に、「戦争が非常に長期に及んだため」、多くのニーファイ人とレーマン人は「苦難を受けたために柔和に」なり、「神の前に心底謙遜にへりくだ〔りました。〕」⁶ 不安定な政治、不穏な社会、また世界の幾つかの地域で見られる現代のガデアントン強盗団は、わたしたちをへりくだらせ、社会不安から身を守る天の避難所を求めるよう、わたしたちを駆り立てるものになるでしょう。
- 第4に、ジョセフ・スミスは敵の手によって長年苦難を味わいましたが、それは結果的に彼に「経験を与え、〔彼の〕益となる」⁷ と主はおっしゃいました。他人の悪事のために味わう苦痛は、自分の行いを改善するための辛くとも貴重な訓練なのです。

さらに、自分の重荷を堪え忍ぶことにより、他人の問題に対してもっと思いやりの念を抱くことができるようになります。使徒パウロは、わたしたちは「互に重

荷を負い合い……、キリストの律法を全うする〔べきである〕」8と教えました。同様にバプテスマの聖約は、わたしたちが次のような人となるよう教えています。「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望〔む〕。」9

バプテスマの聖約をさらに守ることにより、自分自身や、自分が仕える人の重荷を軽くすることができます。10ほかの人にこのような助けを申し出る人は、聖なる地に立っているのです。このことを説明するために、救い主は次のように教えられました。

「『……いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」11

救い主は、わたしたちが重荷を負っている間ずっと、わたしたちが耐えられるだけの力と助けを与えてくださり、そして救い主の時と方法により、重荷から解放してくださいます。アルマとアルマに従う人々は、ノア王の軍勢から逃れてヘラムという共同体を設立しました。彼らは地を耕して建物を建て、栄え始めました。12そこへ突然、レーマン人の軍が来て、彼らを奴隷にしました。「神のほかにも、だれも彼らを救い出せ〔ませんでした〕。」13しかも、直ちに救い出されたわけではありません。

敵は「彼らに苦役を課し、彼らを見張る監督を置〔き〕」始めました。14祈ったら殺すと脅されましたが、15アルマとその同胞は、「自分たちの心を主に注ぎ出し」、「そして主は、彼らの心の思いを御存じで〔した。〕」16アルマの民が善良でバプテスマの聖約に忠実であったので、17苦しみは徐々に取り除かれていきました。主は彼らにこう告げられました。

「わたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、あなたがたが奴隷の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられな〔く〕しよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがその後、わたしのために証人になれるようにするため、また主なる神であるわたしが、苦難の中にいる自分の民を訪れるということ、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。

そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。

さて、彼らは信仰が篤く、忍耐強かったので、主の声が再び聞こえて、言われた。『喜びなさい。明日、わたしはあなたがたを奴隷の状態から救い出す。』」18

憐れみ深い神の御子は、すべての重荷の中で最も重い重荷である罪からの解放を申し出ておられます。贖いの間、御子は「御自分の民の罪を負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられ〔ました〕。」19キリストは「すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにし〔て〕」20くださったのです。わたしたちが悔い改めて戒めを守り続けるならば、救い主のみがお与えになることのできる助けによって赦しが得られ、罪悪感の重荷から解放されます。なぜなら「悔い改める人はだれでも、必ず憐れみを受ける」からです。21

薪の入った大きくて重い袋を、体を曲げて苦勞して背負っていたペルーの男性の姿が忘れられません。それは、人生の重荷に苦しむわたしたちすべての姿と重なります。神の戒めや聖約を守るならば、御父はわたしたちが重荷を負えるよう助けてくださることを知っています。御父はわたしたちを強めてくださいます。わたしたちが悔い改めるなら、わたしたちを赦し、良心の平安と喜びを与えて祝福してくださいます。22わたしたちが、心楽しく忍耐して主の御心にすべて従えますよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約 121 : 7-8
2. モーサヤ 3 : 19
3. モーセ 4 : 23, 25
4. アルマ 32 : 6
5. アルマ 32 : 13
6. アルマ 62 : 41
7. 教義と聖約 122 : 7
8. ガラテヤ 6 : 2
9. モーサヤ 18 : 8-9
10. マタイ 10 : 39 ; 11 : 28-30 ; モーサヤ 2 : 22 参照
11. マタイ 25 : 35-40 参照
12. モーサヤ 23 : 5, 19-20 参照
13. モーサヤ 23 : 23-26 参照
14. モーサヤ 24 : 9
15. モーサヤ 24 : 10-11 参照
16. モーサヤ 24 : 12
17. モーサヤ 18 : 8-10 ; 24 : 13 参照
18. モーサヤ 24 : 14-16

19. アルマ 7 : 13
20. 教義と聖約 19 : 16
21. アルマ 32 : 13
22. モーサヤ 4 : 3 ; アルマ 36 : 19-21 参照